

第5章 拡充先における施設整備計画

第1節 拡充先の概要

(1) 概要・位置と周辺環境

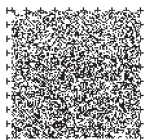
当館の拡充先の整備にあたっては、警固公園の既存の地下駐車場を活用します。拡充先(警固公園)の概要・位置と周辺環境は下記の通りです。

① 拡充先の概要・位置

所在地	福岡市中央区天神2丁目2
警固公園の概要	<ul style="list-style-type: none">公園面積：11,156㎡土地所有者：福岡市公園種別：近隣公園開園年度：1952(昭和26)年(再整備：2012(平成24)年12月)
アクセス(現アジア美術館より)	
距離	約1.0km
公共交通機関	約10分



現館と拡充先(警固公園)位置関係



このマークは目の不自由ななどが使う音声コードです



拡充先(警固公園)の現況図

② 拡充先の周辺環境

(ア) 拡充先の特徴

- 東側には私鉄の西鉄天神大牟田線「西鉄福岡(天神)駅」と長距離バスが乗り入れする「西鉄天神高速バスターミナル」があり、南北には福岡市営地下鉄の2つの駅があります。これらの交通結節点に近接しているため、昼夜ともに歩行者交通量が多いエリアです。
- 都心部における貴重なオープンスペースとして、また、みどり空間として広く親しまれている公園です。

(イ) 周辺の施設等の状況

- 拡充先は、天神地区の中心に位置する警固公園です。
- 天神地区は、博多駅地区と並び、九州最大の商業・業務機能が集積するエリアであり、商業とビジネスの2つの顔を併せ持っています。
- 周辺には、百貨店や専門店、ホテルや映画館を備えた複合商業施設等が立ち並んでいます。

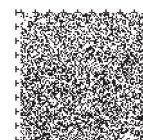


(3) 土地利用上の法令等の条件

土地利用にあたり考慮すべき法令等の条件は、下記のとおりです。

土地利用上の法令等の条件

関係する法令等	法令等の条件
用途地域	商業地域
建蔽率 容積率	12%※ ※既存公園施設含む。福岡市公園条例による。 400%・600%
高度地区	なし
高さ制限	商業地域であることから、隣地斜線及び道路斜線に該当
地区計画	天神二丁目第2地区 地区計画
防火地域	防火地域(西側の天神15号線道路境界より30mの範囲) その他 準防火地域
都市公園法(都市計画法)	都市計画公園区域内の建築制限
景観法、福岡市都市景観 条例	景観計画区域 都心ゾーン
屋外広告物法、 福岡市屋外広告物条例	屋外広告物地域区分 都心部・空港周辺地域
その他区域等	駐車場整備地区 埋蔵文化財包蔵地内(遺跡名称:福岡城跡)



(4) 拡充先(警固公園)の既存施設の状況

警固公園には地上部及び地下部に既存施設が複数存在しています。拡充先の整備にあたっては、地下駐車場を活用した整備計画を前提とすることに加え、地下駐輪場や便所等の既存施設との共存もあわせて考慮する必要があります。

① 警固公園地下駐車場

- 拡充先の整備に活用する既存の地下駐車場の概要は下記のとおりです。

警固公園地下駐車場の概要

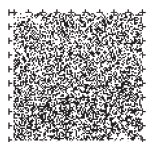
竣工年	1966(昭和41)年4月
建築面積・延床面積	約142㎡・約10,916㎡
階層	地上1階、地下2階
構造・基礎	鉄筋コンクリート造・べた基礎

② 警固公園(地上部)

- 警固公園はかつて犯罪の防止と迷惑行為の抑制が急務の課題となっていたことから「防犯と景観の両立」をデザインコンセプトに、2012(平成24)年に同公園の再整備事業が実施されました。再整備により治安改善と共に周辺商業施設のリニューアル等への波及効果をもたらしています。
- そのため、拡充先の整備にあたっては、美術館と公園が互いに連携しながら、公園を訪れる人に対しても憩いを与え、アジア美術と気軽に出会い、楽しむ場を提供するなど、それぞれの魅力を高め合い、一体的に魅力向上を図っていけるような計画とすることが重要です。



2012(平成24)年の再整備後の警固公園



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

警固公園の既存施設の概要

便所	建築面積・延べ面積：約38㎡ 階層：地上1階
駐輪場 (福岡市営天神自転車駐 車場)	建築面積：約43㎡ 延べ面積：約3,179㎡ 階層：地上1階、地下2階
安全安心センター	約170㎡

第2節 拡充先における施設整備の基本的な方針

第3章第1節で示した「アジア美術館の魅力向上の基本的な方針」を踏まえ、新たに施設を拡充する警固公園地下への施設整備に関して、下記の通り施設整備の基本的な方針を定めます。

(1) まちをつなぎ、人をつなぐ福岡の新たな顔

① 公園との連携、一体化

- 天神の中心に位置する、市民の憩いの場である警固公園と、連携、一体化しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間を創出し、まちへも広げる仕組みづくりを行います。

② まちの顔となる高い意匠性

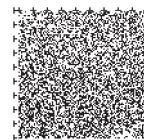
- 人々を惹きつけ、福岡の新たな顔としてふさわしい、高い意匠性を有する施設を整備します。
- 外光が入る空間や開かれた空間を設けるなど、地上の公園と地下の美術館をつなぐとともに、アートとの出会いを演出する象徴的なエントランス等を整備します。

③ まちづくりへの貢献

- 周辺環境と調和しつつ、美術館と公園、まちをつなぎ、周辺施設とも連携しながら、都心部のアート、文化観光の核として展開できる施設整備を行います。

④ 地域との多様な連携

- 周辺の施設や企業等と連携ができ、地域の回遊性やブランド価値の向上に貢献し、相乗効果を得られる施設整備を行います。



(2) 持続可能で安心、快適な美術館

① 環境への持続可能な配慮

- 既存建造物の再利用をはじめ、省エネルギー機器の導入等、環境へ配慮した施設整備を行います。
- 適切な維持管理等、持続可能な運営を実現する施設整備を行います。

② その他の視点

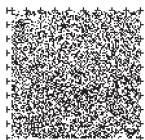
<快適に楽しめるユニバーサルデザイン>

- 誰もが文化芸術を快適に楽しめる、バリアフリーやユニバーサルデザイン¹³を実現します。

<人と作品を守る高い防災性>

- 来館者の安全と市民の財産である美術品を守るため、地下空間の特性を踏まえた浸水対策をはじめとする取組みを進め、高い防災性能を確保します。
- 地上に一時保管庫を設けるなど、バックアップ機能を備えた施設とします。
- セキュリティを意識した動線の取り方等、施設の防犯性能を確保するとともに、地域の安全・安心にも貢献する施設整備を行います。

¹³ ユニバーサルデザイン:年齢、性別、能力、背景等にかかわらず、できるだけ多くの人が自由に快適に利用でき、行動できるように、ものづくり、情報、サービスや街づくりなどあらゆる場面で、あらかじめ、思いやりのある配慮を行うという考え方をいいます。



第3節 拡充先の整備計画

(1) 地上利用計画

拡充先全体の現況を踏まえて、拡充先が魅力的な施設となるための利活用の方向性について示します。

① 都市デザインとアート、みどりの配置について

「都心主軸」や「回遊強化軸」を踏まえながら、拡充先・現館・Artist Cafe Fukuokaに加え、福岡市美術館や周辺の文化施設との繋がりも意識しつつ、アートを介した回遊性の向上を図っていくことが望ましいと考えています。



拡充先周辺図

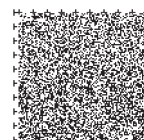
② アクセス(公園との動線等)の考え方

(ア) アクセスに関する現状

- 警固公園へは四周全面からアクセス可能です。
- 中でも、天神今泉通りの北西面や北東面の通行量が多いです。

警固公園の周囲からのアクセス状況

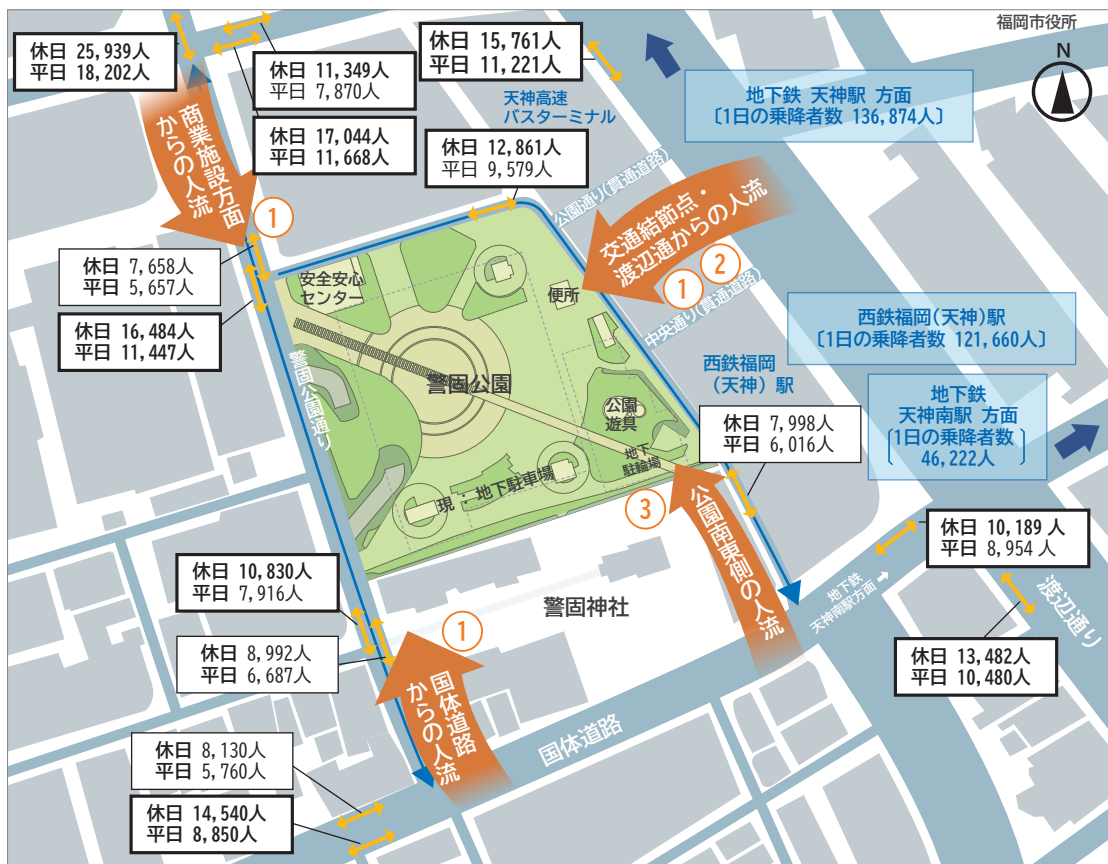
北側	<ul style="list-style-type: none"> ● 商業施設に面している。 ● 公園を南北に横断する歩行者用通路があり、通過動線として利用されている。
西側	<ul style="list-style-type: none"> ● 警固公園通りに面している。 ● 北西方面に位置する商業施設からの人の流れが想定できる。



東側	<ul style="list-style-type: none"> ● 私鉄のターミナル及び商業施設に面している。 ● 南東から北西へ公園を横断する歩行者通路があり、長距離バスのターミナルから大名方面への通過動線として利用されている。
南側	<ul style="list-style-type: none"> ● 神社の敷地に隣接している。 ● 歩行者用通路を介して神社と警固公園を行き来できる。

(イ) 周辺道路における歩行者の状況

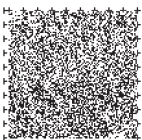
- 「商業施設方面」や「国体道路」、「渡辺通り」の歩行者交通量は、休日には1万人を超えるなど人流が特に多く、これらの人流を取り込み、主要なアクセス軸として計画する必要があります。(①参照)
- 渡辺通り側には、市内でも最大級の乗降客数を有する鉄道駅が集中しており、「交通結節点」として重要であるといえるため、渡辺通りからの人流と併せて重視する必要があります。(②参照)
- 「公園南東側」は、相対的に少ないものの、1日5,000人超の歩行者交通量があり、一定の交通量があるといえるため、この方面の動線も適切に配慮しながら計画することが重要です。(③参照)



周辺の歩行者の交通量等

※データ元概要

- ・歩行者交通量は、R6：天神地区 1日あたり(7:00~20:00)のもの
- ・乗降客数は地下鉄：令和6年版福岡市統計書より集計 西鉄：西鉄公表資料より記載



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

(ウ) 歩行者及び車両のアクセスの考え方

<来館者・公園来訪者のアクセス>

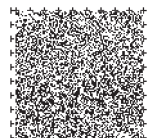
- 来館者にとってわかりやすく、交通結節点を踏まえた、地上・地下からの、円滑なアクセスを検討します。
- 現状の公園来訪者の動線や歩行者交通量等を踏まえた、アプローチやエントランス等の施設配置を検討します。
- 拡充先を整備するにあたり、効果的に人を呼び込むためにはこれらの通行量が多い方面にエントランスを整備することが望ましいと考えられます。
- ユニバーサルデザインに配慮したアクセスを検討します。

<車両のアクセス>

- 周辺の道路事情を踏まえた、歩行者の安全に配慮した車両動線を検討します。(搬出入の車両、車いす利用者用駐車場 等)
- 特に、搬出入車両の動線は、以下のとおり検討します。
 - 警固公園の周囲には2種類の道路が接しており、どちらも広幅員の国体道路に接続しています。①警固公園通り(天神15号線)は幅員約12~15.5m、②天神14号線は、幅員約4m、歩道なしの一方通行の道路となっています。
 - 美術館の搬出入車両として想定している大型車(10トントラックや40フィートコンテナ積載車両等)が安全に通行可能な幅員を有する道路は①警固公園通りとなります。
 - このため、搬出入車両の動線は、①の道路側、公園の西側に計画するよう検討します。
- 美術品等の搬出入時の利便性、セキュリティ等に配慮した車両動線を計画します。



車両動線の検討



③ 公園等との連携の考え方

(ア) 公園との連携・一体化

- 拡充先は、天神の中心に位置する公園の地下に整備するものであり、拡充先を中心としてエリア一帯を含めたにぎわいを創出するためには、地上公園部と地下美術館エリアとの連携・一体化が、計画において重要となります。
- 誰もが憩える魅力的な文化的空間の創出に向け、これまで培われた公園のあり方を踏まえた、公園との連携や一体化を図ります。
- 拡充先のにぎわいが公園を通行する人にも感じられ、引き込まれるような空間をデザインします。
- 既存機能(便所、駐輪場、安全安心センター)の継続を前提とした、公園の魅力や利便性の向上と、美術館の意匠性を両立する空間構成を検討します。
- 周辺施設と連携し、にぎわいを生み出す仕組みをつくります。
- 地域ニーズへの貢献ができる取組みを検討します。
- 防犯面等から視認性を考慮した施設配置を行います。

(イ) 公園として考慮すべき視点

<公園と周辺に開放された動線確保>

- 周辺施設との回遊を促進するために、公園全体を多方向につなぐ動線の確保が必要です。

<まとまった広場空間>

- 災害時等の都心部における一時避難の場所、活動の拠点として、まとまった広場が必要です。

<見通しの確保>

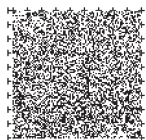
- 安全・安心を確保するために、公園内を見通せ、死角をできる限り減らすような配慮が必要です。

<みどり空間の確保>

- 現状以上の緑地を確保します。



※広場空間には周辺のベンチ等も含む



④ 地上部の利活用に関する考え方のまとめ

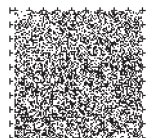
これまで整理してきた、回遊性の向上や周辺の人流、搬出入車両動線、公園として考慮すべき点といった視点のもとに、美術館の配置計画・利用計画について、引き続き検討していきます。



地上利用計画の検討の視点まとめ

(2) 拡充先の機能・諸室

拡充先に必要な機能(展示機能、学び・体験機能、にぎわい・集客機能等)に、その他の美術館活動と管理運営機能を加えた施設全体の機能について、各機能を実現するために必要となる諸室と、さらに諸室をグルーピングしたゾーンの規模及び構成について整理します。なお、面積については目安とし、今後の検討により変更となる可能性があります。詳細な床面積や規模は設計において確定するものとします。



① 施設規模について

施設整備方針及び拡充先全体の利活用の考え方をもとに、拡充先の面積、高さを整理します。

(ア) 施設の面積

- 拡充先全体の床面積は、7,500㎡～9,000㎡程度とします。
(現・地下駐車場の1層当たりの床面積は、約4,900㎡)

(イ) 建築物の高さの考え方

- 美術館の必要諸室と象徴的なエントランスといった、地上部の建築物の計画は、ボリュームや配置について周辺環境の特性を踏まえ、また、公園との一体性の確保を図ります。

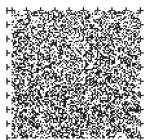
② 施設全体の機能構成について

拡充先では第4章で示した主な機能構成に対応する形で、主な諸室を下記の通り想定しています。

拡充先に備える機能と想定される主な諸室

美術館活動 等	想定される主な諸室(室名は仮称)
展示	ギャラリー、映像ギャラリー、展示準備室、一時保管庫、搬出入口・トラックヤードなど
学び・体験	多目的室、ワークショップ室、ボランティア室など
エントランス、にぎわい・集客	魅力的な導入部分となる象徴的なエントランス、ミュージアムショップ、イベント等での飲食機能提供など
その他の美術館活動	資料室、ライブラリー、滞在用控室など
管理・運営	事務室など

※上記の諸室のほか、ユニバーサルな施設環境とするために必要な諸室(医務室、授乳室、キッズコーナー、カームダウンスペース等)の設置もあわせて検討していきます。



③ 地上部と地下部の考え方

(ア) 警固公園地上部の考え方

公園施設の建蔽率を考慮し、搬入出口や一時保管庫、各種機械室など、管理運営上、最小限必要な諸室の配置を検討するとともに、象徴的なエントランスの確保について検討する必要があります。また、地上でのアート空間の展開も今後、検討していきます。

- 美術館として地上配置が望ましい床面積(約1,000~1,500㎡)を想定

エントランス、所蔵品の搬入出口や一時保管庫や各種機械室等

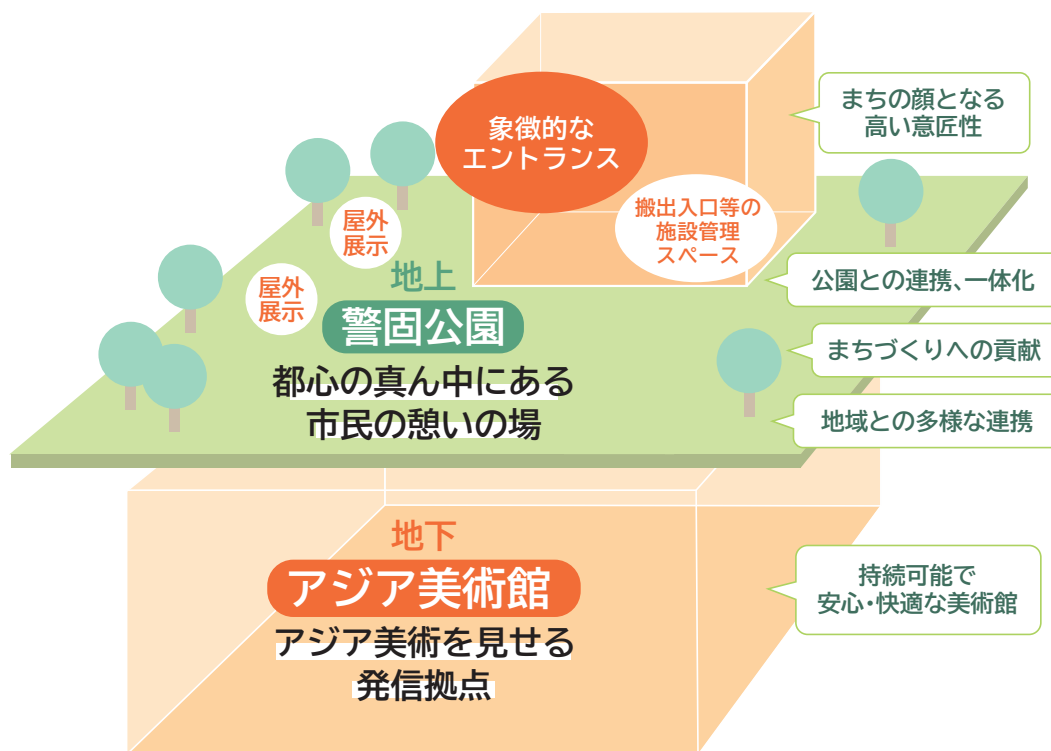
(イ) 警固公園地下部の考え方

既存の駐車場躯体を再利用し、展示空間として活用するため、天井高さを確保するよう構造等を検討し、ギャラリーを中心とした諸室配置を検討します。

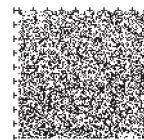
その他の諸室については、現在のスロープ部等を活用した地下増築を含め、検討します。また、地下での計画にあたっては、採光の工夫についても考慮する必要があります。

- 美術館として地下駐車場を活用し配置する床面積(約6,500~7,500㎡)を想定

ギャラリー、展示準備室、ワークショップ室、ボランティア室、飲食提供、ショップ、事務室等



美術館の整備イメージ図



④ 各ゾーンの構成

美術館の魅力向上を図るために必要な機能を配置し、各機能に必要な面積と求める仕様を次の通りとします。

(ア) 展示ゾーン 約3,000㎡ (うち ギャラリー 約2,000㎡)

- アジア美術の傑作を中心としたコレクション展に加え、小規模から大規模まで多様な企画展や特別展等に柔軟な対応ができる展示室
- 立体やインスタレーションなどの大型作品をダイナミックに展示できる空間を備えた展示室
- 複数のスクリーンによる映像作品や多様なメディアアートに対応できる設備をもつ展示室
- 多彩な現代美術作品を作品の搬入から展示、一時保管、搬出まで円滑かつ安全に行える動線の確保

(イ) 学び・体験ゾーン 約600㎡

- 展示やコレクションに関連したワークショップ活動、講座やセミナー等のイベントを行うことができる空間
- 学校等の団体見学や対話型アート鑑賞等の受け入れを、説明や休憩等も含め、十分に対応できる空間

(ウ) その他の美術館活動ゾーン

(調査研究) 約150㎡

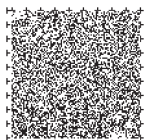
- 展示を行う際に必要な資料、図書を備える
- 招へい者等が滞在し、実際の展示を基に研究を行うことができる諸室

(美術交流) ※(展示の一部)

- レジデンスアーティストの成果展示が開催できる空間

(エ) にぎわい・集客ゾーン 約1,500㎡

- まちの顔となり、アートとの出会いを演出するアプローチやエントランス
- 屋外においてもアートを感じられる空間
- ナイトコンテンツやユニークベニュー等としての活用も見込める十分な空間と、そうした利用にも対応できる作品保護やセキュリティを考慮した設備



(オ) 管理・運営ゾーン 約1,100㎡

- 施設全体の事務業務・運営業務を円滑に行うことのできる諸室、空間

(カ) ユニバーサル関連の諸室 約200㎡

- 医務室、授乳室、キッズコーナー、カームダウンスペース等の配置を検討

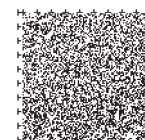
ゾーンごとの目安規模と主な諸室のまとめ

ゾーン	規模 ※目安	主な諸室イメージ ※室名は仮称
展示ゾーン	約3,000㎡ うち ギャラリー2,000㎡	● ギャラリー（映像ギャラリー含む） ● 展示準備室 ● 一時保管庫 ● 搬出入口、トラックヤード など
学び・体験ゾーン	約600㎡	● 多目的室 ● ワークショップ室 ● ボランティア室 など
その他の美術活動ゾーン	調査研究 約150㎡ 美術交流（展示の一部）	● 資料室、ライブラリー ● 滞在者用控室 など
にぎわい・集客ゾーン	約1,500㎡	● 魅力的な導入部分となる象徴的なエントランス ● ミュージアムショップ ● イベント等での飲食機能提供 など
管理・運営ゾーン	約1,100㎡	● 事務室 など
ユニバーサル関連の諸室	約200㎡	● 医務室、授乳室 など
その他	適宜	● 設備関連諸室 など

拡充先全体の床面積の目安は、7,500㎡～9,000㎡程度

※上記(ア)～(カ)のほか、共用部や機械室等、美術館としての施設運営に必要な諸室を適切に計画する必要があります。

※面積については目安であり、今後の検討により変更となる可能性があります。



(3) 拡充先のゾーニング・動線計画

本節(2)で示した機能・諸室について、来館者、職員、その他の館を訪れる全ての人にとって訪れやすい・使いやすい配置・動線となることを前提に、

- ①公開・非公開エリアの考え方
- ②有料・無料ゾーンの考え方
- ③美術館の中核を担う機能(展示機能)に求められる性能

を整理した上で、適切な機能を備えた美術館となるようゾーニング概念図を示します。

① 公開・非公開エリアの考え方

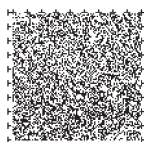
美術館施設の計画は、一般来館者に開かれた「公開エリア」と、一般来館者の立ち入りを想定せず、学芸員等美術館スタッフや関係者のみが活動する「非公開エリア」の2つに大きく分けることができます。拡充先においても、そうした美術館施設の公開・非公開の考え方を踏まえ、計画していきます。

<公開エリア>

- 「展示機能(ギャラリー)」、「学び・体験機能」、「その他の美術館活動(美術交流)」、「にぎわい・集客機能」から主に構成されます。
- 来館者にとって使いやすくわかりやすい動線に十分配慮する必要があります。
- 多様な来館者を想定し、ユニバーサルデザインの実現を目指します。

<非公開エリア>

- 「展示機能(ギャラリー以外)」、「その他の美術館活動(調査研究)」、「管理運営機能」から主に構成されます。
- 公開エリア側からのアクセスを制限し、セキュリティや安全性を担保することで、作品保護や機密情報の管理に配慮します。
- 効率性・利便性と働く環境としての快適性・居心地の良さを確保することが必要です。

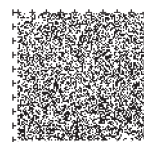


② 有料・無料ゾーンの考え方

- 公開エリアのうち、展示室外の、市民が気軽に集えるオープンスペースを整備し、地上部の公園と緩やかにつながりながらにぎわいが生まれ人々が交流する空間を目指します。
- 特に、にぎわい・集客機能については、地上部からもアクセスしやすい場所への計画や、地上部から活動を視認できる空間の工夫を行い、活動から生まれるにぎわいが施設内外へ波及する効果を想定しています。展示室以外でも楽しみ、滞在できるスペースを整備し、誰もが気軽に立ち寄り、さまざまな来館目的に応えられる施設の在り方を目指します。
- 公園との一体性及びにぎわいの創出を促すために、展示室外の使い方を工夫し、展示室内外の開放時間についても、今後検討します。

③ 美術館の中核を担う機能(展示機能)に求められる性能

- 展示機能(ギャラリー及びそれに付随する収蔵・保管空間)は美術館の中核を担うものとして、特に、高いセキュリティレベルと、適切な温湿度管理、防災対策、バックアップ機能が求められます。
- セキュリティに関しては、一般来館者動線と作品搬入動線が交錯しないよう区分する必要があります。
- 適切な温湿度管理に関しては、コレクション及び国内外からの借用作品が、適切な環境で管理されるよう十分に考慮します。
- 防災対策に関しては、来館者の安全と市民の財産である美術品を守ることが重要であり、地下空間に計画される美術館という特性を踏まえ、高潮や洪水等の影響を考慮して施設全体で十分な浸水対策を講じるとともに、作品の一時的な収蔵・保管に係る一時保管庫は地上に配置するなど、バックアップ機能を備えます。



④ ゾーニングと館内の動線計画

(ア) 想定されるゾーニング

本節(2)④に示した拡充先に想定される機能とゾーンに基づくゾーニングを概念図で示します。

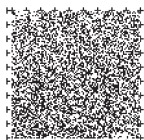


ゾーニング概念図

※ゾーニングは、現時点の施設整備イメージを整理した現時点での考え方です。このゾーニングは必要となる機能を配置したイメージであり、今後の検討を踏まえて対応を図るものであるため、整備内容を決定したものではありません。

(イ) 館内の動線計画に関する考え方

- 来館者がゾーン間をスムーズに行き来できる分かりやすい動線計画とします。
- 各ゾーンが独立しているのではなく、展示、学び・体験、にぎわい・集客といった活動が自然に連続し、人の流れの行き来やにぎわいの雰囲気ゾーンを超えて館全体に広がる・つながる空間構成とします。
- 展覧会を目的に館を訪れた来館者はもちろん、何気なく立ち寄った来館者にとっても気軽に利用でき、回遊しやすく、心地よく滞在できる空間構成とします。
- 各ゾーンへのアクセスやゾーン間の移動が来館者にとってわかりやすく、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた動線計画とします。



- 来館者に開かれた部分と作品の安全性を確保する部分とを両立できる動線計画と機能配置とします。
- 管理運営や搬出入に係るバックヤード部分の動線は効率的で使いやすいものとなるよう計画します。
- 災害時や特定イベント時の混雑を想定し、安全に避難できる動線計画と、避難誘導の視認性を確保します。

(4) 施設計画の考え方

本節(3)で示したゾーニング・動線計画を踏まえ、施設計画の考え方を整理します。

① 構造計画

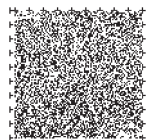
- 駐車場として利用されていた既存躯体を、美術館として活用するにあたっては大空間の確保が必要となります。施設計画をふまえ、既存の構造部材の撤去や補強、新設について、検討する必要があります。
- 美術館として活用するにあたり、既存躯体の耐荷重を考慮した計画を検討する必要があります。

② 設備計画

- 美術館施設を運営するために必要な機能を確保しつつ、イニシャルコストやランニングコストを十分考慮した設備仕様・配置・規模とします。技術や機能の信頼性、維持管理のしやすさ、環境への配慮等も考慮した効率的な運用に配慮します。
- 一時保管庫や作品保護において重要な役割を果たす設備関係諸室(電気設備スペースや空調機室など)は特に、災害時の浸水想定深さより上部に配置することが重要です。
- 災害時や不測の事態のバックアップ機能として、自家発電装置の設置や、作品に係る室の空調のバックアップも検討します。

③ セキュリティ計画

- 公開エリアと非公開エリアを明確に区分し、高い防犯性を確保します。
- 作品の搬出入動線は、高い防犯性を確保します。
- VIP対応も可能な動線計画や付帯設備等も検討します。



④ 駐車場計画

- トラックヤードに加え、敷地内に車いす使用者用駐車場を整備します。
- 車いす使用者用駐車場は、乗り降りがしやすい十分な広さと高さを確保し、エントランスへアプローチしやすい位置とします。
- 天神中心部における交通混雑緩和を図る取り組みを踏まえ、一般用の駐車場については、隔地での確保を基本とします。

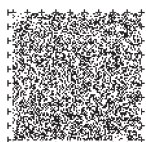
⑤ 浸水対策の考え方

- 来館者の安全と市民の財産である美術品を守るため、地下空間の特性を踏まえた浸水対策を講じることが重要です。
- 具体的な浸水対策の例としては、下記のような内容が想定されます。

浸水対策の例

対策例	対象となる場所のイメージ
止水板	<ul style="list-style-type: none">● 地上から地下へつながる開口部への浸水対策● 地下水の侵入防止対策
防水シャッター	<ul style="list-style-type: none">● 地上の車両搬出入口の浸水対策
防水扉	<ul style="list-style-type: none">● 地下の展示室、機械室等の浸水対策
防水層	<ul style="list-style-type: none">● 地下水の侵入防止対策

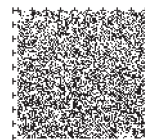
- その他、エントランスを地盤面より高い位置に設けるといった建築計画上の対策や、地階の排水設備を十分に計画する等の設備面での対策、防水性の高い建具や材料の採用など、防水・止水・排水に関して各方面から対策を検討する必要があります。
- 一時保管庫や作品保護において重要な役割を果たす設備関係諸室（電気設備スペースや空調機室など）を、地上の災害時浸水想定深さより上部に配置するなど、万が一のバックアップ機能に対する検討も重要です。
- 地上からの浸水対策に加えて、地下水の浸入防止の適切な対策も必要です。既存構造物と増築部分それぞれに適した対策（既存の地下の外壁の状況に応じた防水層の設置や止水対策、止水性の高い接合方法の採用など）を検討していきます。



⑥ 設計上の配慮事項

施設の特性を踏まえ、設計に関して配慮すべき事項について、拡充先の設計上の配慮事項(デザインコンセプト)を下記に整理します。

- 外光が入る空間や開かれた空間を設けるなど、地上と地下が連携・一体化した美術館
- 人々を惹きつけ、福岡の新たな顔としてふさわしい、高い意匠性を有する美術館
- アートとの出会いを演出する象徴的なエントランスを有する美術館
- 人々が訪れたい、立ち寄りたいたいと思えるような魅力的な導入部分となる、視認性が高く、象徴的なエントランスを有する美術館
- 周辺環境と調和しつつ、美術館と公園、まちをつなぎ、周辺施設とも連携しながら、都心部のアート、文化観光の核として展開できる美術館
- 周辺の施設や企業等と連携ができ、地域の回遊性やブランド価値の向上に貢献し、相乗効果を得られる美術館
- 既存建造物の再利用をはじめ、環境へ配慮した美術館
- 浸水対策を講じる等、高い防災性を有する美術館
- 地上だけでなく地下からのアクセスも確保した利便性の高い美術館



第 6 章 アジア美術館の管理・運営計画

(1) 管理・運営の基本的な方針

アジア美術館の魅力向上の基本的な方針を踏まえ、拡充先における管理・運営の基本的な考え方について、下記のとおり整理します。

① アジア美術との多様な出会いを創出する

子どもから大人まで、さまざまなきっかけで訪れる人々に対して、アジアの多様な美術や文化と気軽に会える場を提供します。

② アジア美術を楽しみ、知る機会を創出する

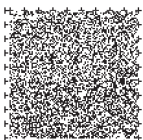
子どもから大人まで、アジアの美術作品が発する多様な問いかけを通じて、自分や世界を見つめる学びの機会を提供します。特に、未来を担う子どもたちにとって、アジア美術をはじめ、多文化や多様性について、楽しみながら体験し、学べる場を提供します。

③ 多様な主体の活動・交流の促進

アーティストや美術関係者、ボランティアなどの多様な主体が、美術館活動に参画し、交流できる機会や場を提供することで、つながりを深め、継続的に関わりを持てる環境づくりを進めます。

④ 公園との一体化・連携

天神の中心に位置する公園と連動した開かれた施設として、にぎわいの創出と、多様な来館者が安心して過ごせる環境づくりと、地域の安全・安心に貢献する運営を促進します。



(2) 拡充先の管理・運営の具体的な考え方

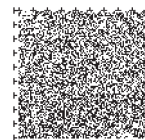
上記の基本的な考え方や、現状の運営面、警固公園の来訪傾向等を踏まえ、拡充先における管理・運営のあり方について、より具体的な考え方を整理しました。

① 開館時間・開館日

- 警固公園では、平日や朝・夕方の公園来訪者が多いため、こうした動向に合わせた開館時間や休館日の設定が重要と考えられます。
- また、外国人観光客は夜間の来訪が多く、夜間利用の需要が見込まれるため、そのニーズに応える開館時間やサービスの検討が求められます。
- 多くの人でにぎわう天神エリアの特性や公園来訪者等の特性を踏まえ、ターゲットに合わせた開館時間や、展示室以外のスペースの夜間活用等、利用目的に応じた柔軟な運用を検討します。

② 施設の活用の考え方

- 夜間や非展示時間帯も活かしながら、講演会、レセプション、企業イベント等のユニークメニューとしての利用を推進します。
- 展示室以外でも楽しみ、滞在できるオープンなスペースを整備し、誰もが気軽に立ち寄り、さまざまな来館目的に応えられる運用を図ります。
- 作品保護や安全確保を前提に、ロビー等のパブリックスペースを柔軟に活用できる運営ルールを整備します。
- 地上の公園と連携し、にぎわいの創出につなげます。
- 周辺の施設や企業と連携した、文化的なイベント等の実施を検討します。
- イベント等を通じて新たな来館層の掘り起こしと、アジア美術館の認知向上を図ります。
- にぎわい創出やユニークメニュー等での活用のあり方については、今後検討していきますが、展示される作品についての販売は行わないものとします。



③ 広報活動の充実

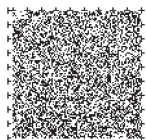
- SNSやウェブサイト等を活用し、展覧会や収蔵作品等の情報を積極的に発信します。
- 観光客向けに、旅マエ・旅ナカでアクセスしやすい情報発信を行い、利用促進につなげます。
- 開館前から、施設拡充の検討や工事の進捗状況等について、様々な媒体を通じて情報発信し、期待感を高め、開館後の利用促進につなげます。
- 情報発信を通じて、市民や来館者との相互コミュニケーションを活性化させ、アジア美術館への関心や愛着を高めることで、多様な主体による自主的な活動や参画を促進します。

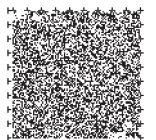
④ デジタルの活用・DXの推進

- 最新のデジタル機器や技術の導入を進め、映像・音響・メディアアート等、多様化する近現代美術の展示ニーズに対応できる展示環境の充実を図ります。
- デジタルコンテンツ開発、デジタルアーカイブ化等を推進します。
- デジタルを活用し、国内外へアジア美術の魅力を広く伝えるとともに、遠隔での体験から来館につながる仕組みづくりを行います。
- デジタルを活用し、サービス向上と効率的な運営を図ります。

⑤ 安心安全の確保・効率的運営

- 防災性を確保し、高い危機管理能力を備えた管理体制を構築し、来館者が安全、安心に過ごせる環境を整えます。
- 市民の財産である美術品を適切に保護するため、万全なセキュリティ体制を確保します。
- 民間活力の導入や、専門家による知見を活用し、サービス向上と来館者拡大に努めます。
- 広告収入や協賛、支援者拡大等の多角的な収入確保に努めるとともに、持続可能で自立性の高い運営体制を検討します。
- 多様な主体が活動や交流に関わることができ、人々の活動の場や居場所となるような仕組みや運営体制を検討します。





第 7 章 基本計画の実現に向けた事業手法

(1) 基本的な考え方

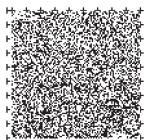
施設拡充の検討にあたっては、公共の財政負担の低減や施設の効率的な運営を図ることを基本に、多彩なデザイン提案を募ることができる設計者の選定手法や、来館促進や美術館運営、施設管理の効率化など整備、運営面における民間ノウハウの活用を含めた事業手法について、以下の考え方を踏まえつつ、民間事業者の意見を参考にしながら、検討していきます。

① 整備面における考え方

- 天神の中心に位置する警固公園に施設拡充を行うにあたっては、公園との一体化や象徴的なエントランスをはじめとする建築の意匠性、アートを感じられる屋外空間の創出など、魅力的な建築・空間デザインが必要不可欠となるため、多彩なデザイン提案を募ることができる手法の検討が必要です。
- 美術館の基幹機能を維持し、運営や活動の独自性、柔軟性、継続性を確保できる施設整備が必要です。
- 福岡の新たな顔となる施設であり、地下空間特有の浸水対策や災害対応など、事業の特殊性を踏まえた十分な配慮が求められることから、本市の関係部署と連携して取り組むとともに、民間の知見を活かしながら、施設整備の実現に取り組めます。
- 来館促進やにぎわい創出に資するサービス機能において、民間の創意やノウハウを活かすことができる施設整備について検討することが必要です。
- 整備の進捗状況も継続的にお知らせし、本事業への市民の理解促進に取り組めます。

② 運営面における考え方

- これまでの先駆的な取組みの継続により培ったアジア美術館の文化的意義や評価などの強みを最大限活用できるよう市が引き続き担っていきます。
- 美術館運営、施設管理の効率化や美術館の利用活性化のため、民間ノウハウを活用した体制の検討が必要です。



〈官民の役割分担イメージ〉

市が担っていくもの	民間のノウハウ活用が期待できるもの
<ul style="list-style-type: none">● アジア美術館収蔵品の収集、保管、調査研究● 収蔵品の適切な展示、公開● 教育普及活動	<ul style="list-style-type: none">● 維持管理業務の効率化● 行き届いた接遇等の利用者サービス● 美術館の集客向上や多様な利活用を図るサービスの提供

〈事業手法の例〉

事業手法	特徴
分離分割発注 (従来方式)	● 資金調達は公共が行い、施設の設計、工事、維持管理、運営を民間に分離分割発注する方式。
DBO方式	● 資金調達は公共が行い、設計、施工、維持管理、運営を民間に一括で発注する方式。
PFI-BTO方式	● 資金調達は民間が行い、設計、工事、維持管理、運営を民間に一括で発注する方式。

(2) 設計手法の検討について

第5章第2節「拡充先における施設整備の基本的な方針」に沿った施設とするためには、より魅力的な建築・空間デザインが必要であるため、基本設計を対象とした公募を実施し、多彩なデザイン提案を募ります。

(3) 事業手法の検討について

事業手法の検討にあたっては、コストや財政負担など定量的な評価のほか、施工の実現性や民間事業者の事業参画性などの観点から定性的な評価を行い、検討します。その中でも、エントランスなど警固公園(地上部)に必要な施設については、公園等との連携の考え方や公園として考慮すべき視点に留意したうえで、規模や配置、美術館としての統一的なデザイン性、地下構造物への影響等を踏まえ、民間ノウハウの活用の可能性も含め検討します。

